

令和7年度 第1回羽島市特別支援教育連携協議会 (会議要旨)

日 時	令和7年7月3日(木) 午後2時00分～午後2時45分	
場 所	市民会館 第1会議室	
出席者	<p>【出席委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援コーディネーターを代表する者 ・羽島市PTA連合会を代表する者 ・学識経験者 ・学識経験者 ・羽島市医師会代表 ・羽島市学校医代表 ・中央子ども相談センター代表 ・羽島市健幸課健幸担当課長 ・羽島市内保育園及び幼稚園を代表する者 ・教育委員会事務局を代表する者 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達支援センター代表 ・羽島特別支援学校代表 ・羽島市手をつなぐ親の会代表 ・西部幼稚園長 ・教育委員会事務局を代表する者 <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育課特別支援教育係長 <p>【欠席】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名
内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1 委嘱書交付 2 あいさつ 3 議事 <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の羽島市の特別支援教育について (1) 令和7年度羽島市特別支援教育 <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県・羽島市の特別支援教育の動向 ・羽島市の特別支援教育の重点 (2) 令和7年度羽島市特別支援教育関係会務計画 4 ご指導 	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を要する子への支援について、支援をする側もされる側にも学びや成長があると考ええる。 ・幼稚園等においても合意形成を大切にしている。幼稚園等から小学校へと学習や生活の場が変わっても、関係機関と連携しながら、本人・保護者、学校等で合意形成を図っていけるとよい。 ・「合意形成」を図ることは大切である。実現可能で、今後、本人にメリットがあるかを考えながら、本人への支援についての検討をしていけるとよい。また、こどもを多面的に見ることや、ライフステージを見据えることを大切にしながら、適正な就学先はどこかを考えていけるとよい。 ・「個別の教育支援計画」は、家庭と学校で話し合いながら、協力して作っていくものである。こどもの様子、こどもが置かれる状況は常に変わるため、「個別の教育支援計画」の内容(支援の方向や支援の内容)をその都度見直していくとよい。そして、その時々の子どものあった支援をしていく。 ・10年前と比べて、こどもの数は減ってきているが、不登校や外国籍にルーツのある子も含め、特別な支援を要するこどもは増えてきている。羽島市においても特別支援学級や通級指導教室に通う児童生徒が増えてきており、特別支援教育のニーズが高まってきている。これからは、一部の先生が行う「特別支援教育」ではなく、こどもに関わる全ての関係者が「特別ではない支援教育」「当たり前の支援教育」を行うことが求められる。 	
	※特記事項・・・特になし	